



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

ニッセイグローバルバランスオープン

(債券重視型) / (標準型) / (株式重視型)

愛称：ゆめ計画

追加型投信／内外／資産複合

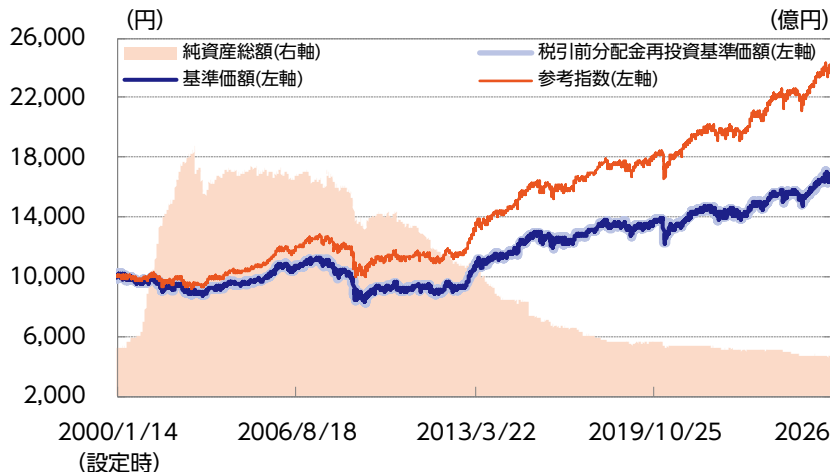
マンスリーレポート

2026年5月末現在



運用実績 債券重視型 (ゆめ計画30)

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	16,949円
前月末比	223円
純資産総額	10億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第20期	2019年12月	0円
第21期	2020年12月	0円
第22期	2021年12月	0円
第23期	2022年12月	0円
第24期	2023年12月	0円
第25期	2024年12月	0円
第26期	2025年12月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	1.3%	-0.6%	3.4%	10.1%	16.1%	69.5%
参考指数	1.4%	-0.2%	2.9%	9.8%	18.7%	143.0%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものとして計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものとして計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

※当ファンドはベンチマークを定めていませんが、各資産のベンチマークを基準資産配分比率に基づき加重平均して算出したものを参考指数として掲載しております。

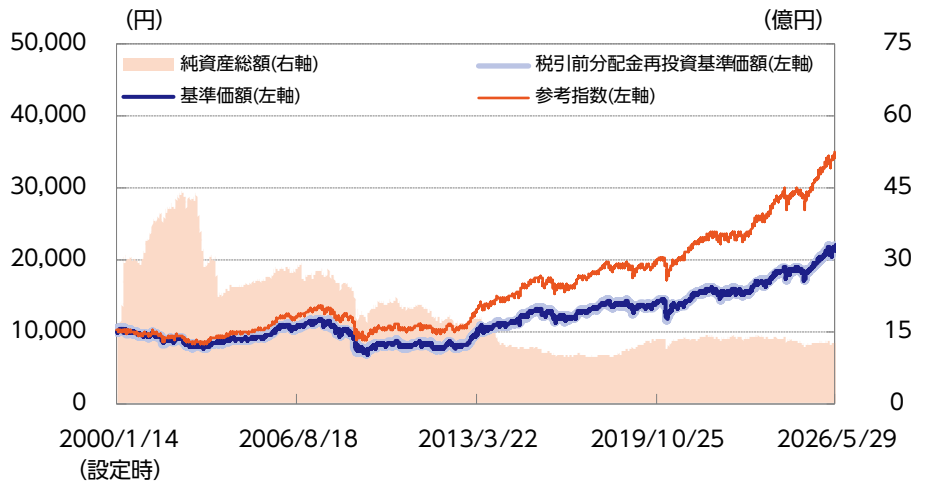
資産別組入比率と騰落率

	投資対象ファンド	基準配分	投資対象ファンド 組入比率		投資対象ファンド騰落率		
					1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
国内株式	国内株式配当利回り重視型	20.0%	21.4%	4.2%	7.0%	0.6%	23.6%
	J P X日経400アクティブ			10.7%	5.0%	3.1%	23.5%
	国内株式リサーチ・バリュー			6.4%	9.4%	3.0%	23.2%
	—			—	—	—	—
国内債券	国内公社債クレジット特化型	55.0%	53.4%	26.7%	-0.4%	-2.7%	-3.6%
	国内債券アクティブ (金利戦略重視型)			26.7%	-0.4%	-2.8%	-3.6%
	—			—	—	—	—
海外株式	ブラウン・グローバル・リーダーズ株式	10.0%	10.3%	4.9%	-1.5%	-1.4%	-1.8%
	サンダース・グローバルバリュー株式Ⅱ			5.5%	6.0%	10.9%	20.7%
	—			—	—	—	—
海外債券	パトナム・海外債券	10.0%	10.0%	10.0%	0.1%	1.0%	3.0%
短期金融資産		5.0%	4.9%	4.9%			

※組入比率は対純資産総額比 ※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

運用実績 標準型（ゆめ計画50）

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	21,821円
前月末比	483円
純資産総額	12億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第20期	2019年12月	0円
第21期	2020年12月	0円
第22期	2021年12月	0円
第23期	2022年12月	0円
第24期	2023年12月	0円
第25期	2024年12月	0円
第26期	2025年12月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.3%	0.6%	7.1%	18.6%	35.8%	118.2%
参考指数	2.6%	1.5%	7.0%	19.4%	41.1%	248.4%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。
※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。
※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。
※当ファンドはベンチマークを定めていませんが、各資産のベンチマークを基準資産配分比率に基づき加重平均して算出したものを参考指数として掲載しております。

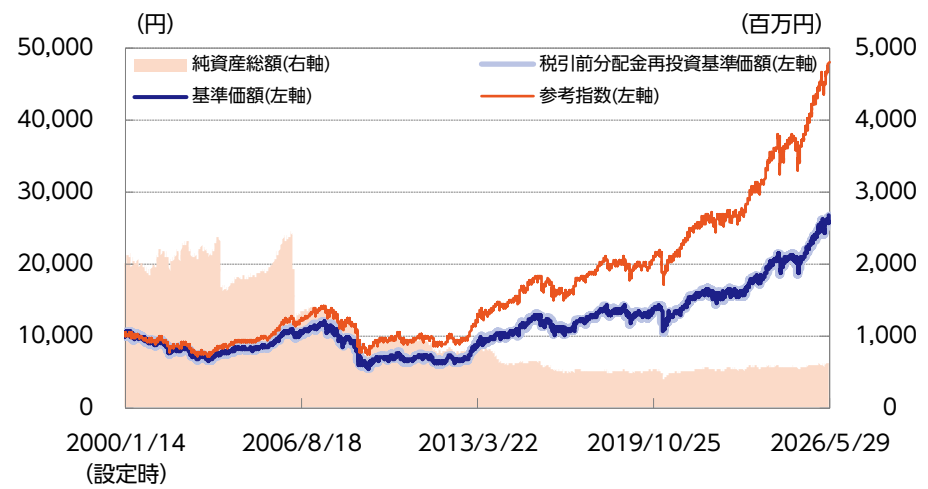
資産別組入比率と騰落率

	投資対象ファンド	基準配分	投資対象ファンド組入比率		投資対象ファンド騰落率		
					1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
国内株式	国内株式配当利回り重視型	30.0%	31.1%	6.1%	7.0%	0.6%	23.6%
	J P X 日経 4 0 0 アクティブ			15.5%	5.0%	3.1%	23.5%
	国内株式リサーチ・バリュー			9.4%	9.4%	3.0%	23.2%
	—			—	—	—	—
国内債券	国内公社債クレジット特化型	35.0%	33.6%	16.8%	−0.4%	−2.7%	−3.6%
	国内債券アクティブ（金利戦略重視型）			16.8%	−0.4%	−2.8%	−3.6%
	—			—	—	—	—
海外株式	ブラウン・グローバル・リーダーズ株式	20.0%	20.6%	9.7%	−1.5%	−1.4%	−1.8%
	サンダース・グローバルバリュー株式Ⅱ			10.9%	6.0%	10.9%	20.7%
	—			—	—	—	—
海外債券	パトナム・海外債券	10.0%	9.9%	9.9%	0.1%	1.0%	3.0%
短期金融資産		5.0%	4.9%	4.9%			

※組入比率は対純資産総額比 ※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。 ※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

運用実績 株式重視型（ゆめ計画70）

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	26,540円
前月末比	821円
純資産総額	613百万円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第20期	2019年12月	0円
第21期	2020年12月	0円
第22期	2021年12月	0円
第23期	2022年12月	0円
第24期	2023年12月	0円
第25期	2024年12月	0円
第26期	2025年12月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	3.2%	1.9%	11.1%	27.9%	58.8%	165.4%
参考指数	3.9%	3.2%	11.1%	29.7%	67.0%	380.0%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。
※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。
※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。
※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。
※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。
※当ファンドはベンチマークを定めていませんが、各資産のベンチマークを基準資産配分比率に基づき加重平均して算出したものを参考指数として掲載しております。

資産別組入比率と騰落率

	投資対象ファンド	基準配分	投資対象ファンド 組入比率		投資対象ファンド騰落率		
					1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
国内株式	国内株式配当利回り重視型	40.0%	41.1%	8.2%	7.0%	0.6%	23.6%
	J P X日経400アクティブ			20.1%	5.0%	3.1%	23.5%
	国内株式リサーチ・バリュー			12.7%	9.4%	3.0%	23.2%
	—			—	—	—	—
国内債券	国内公社債クレジット特化型	15.0%	14.5%	7.2%	−0.4%	−2.7%	−3.6%
	国内債券アクティブ（金利戦略重視型）			7.2%	−0.4%	−2.8%	−3.6%
	—			—	—	—	—
海外株式	ブラウン・グローバル・リーダーズ株式	30.0%	29.9%	14.3%	−1.5%	−1.4%	−1.8%
	サンダース・グローバルバリュー株式Ⅱ			15.5%	6.0%	10.9%	20.7%
	—			—	—	—	—
海外債券	パトナム・海外債券	10.0%	9.7%	9.7%	0.1%	1.0%	3.0%
短期金融資産		5.0%	4.9%	4.9%			

※組入比率は対純資産総額比 ※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。※ファンド騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

当月の市況動向（国内株式）

当月の国内株式市場は、大幅に上昇しました。

上旬は、中東情勢の緊張緩和の見方や米国株式市場の上昇を背景に、大きく上昇して始まりました。中旬には、原油価格の上昇による世界的なインフレ懸念や、財政懸念から国内長期金利が2.8%近辺まで上昇したことにより株式市場は一時的に下落しましたが、政府の補正予算の規模が明らかになると、市場は落ち着きを取り戻しました。下旬にかけては、海上輸送の要衝であるホルムズ海峡の通航再開への期待やインフレ懸念の後退に加え、米国での生成人工知能（AI）関連企業の年内新規株式公開（IPO）観測が好感されました。月間を通じては堅調に推移しました。

日経平均株価の月末終値は66,329.50円（前月末比+7,044.58円）となりました。東証株価指数（TOPIX）の月末終値は3,957.17ポイント（前月末比+229.96ポイント）、JPX日経インデックス400の月末終値は36,007.99ポイント（前月末比+2,032.39ポイント）となりました。

当月の市況動向（海外株式）

当月の世界株式市場は、戦闘終結に向けた米国とイランの交渉進展への期待が継続し、AI関連への旺盛な投資意欲や好業績を背景にAIインフラ関連企業への物色が続いたことから、上昇しました。

上旬は、米主要テクノロジー企業の好業績発表がけん引する形で、前月からの上昇基調を維持しました。

中旬は、米中首脳会談で目立った成果がなかったとの見方や、海上輸送の要衝であるホルムズ海峡の通航正常化に時間を要するとの懸念、米国のインフレ加速から世界的に長期金利が上昇したことを受け、これまで上昇してきた銘柄の利益確定とみられる動きが活発化しました。

下旬は、米国とイランが停戦延長で合意するとの見方が強まったことや、半導体企業をはじめとするAIインフラ関連企業が好業績を相次いで発表したこと、イーロン・マスク氏が率いる米宇宙会社スペースXが過去最大規模とみられるIPOに向けて正式に届け出を提出したことで投資家がリスク選好的な動きとなり、株価の上げ幅はさらに拡大しました。

当月の市況動向（国内債券）

前月末の2.53%近辺からスタートした国内長期金利は、上旬は、政府・日銀による為替介入と見られる動きを受けたインフレ懸念の緩和や、米国とイランの戦闘終結期待を受けた海外金利の低下を背景に、低下しました。しかし中旬には、再び中東不安の長期化懸念が生じたことや、政府が補正予算案の編成を検討しているとの報道を受けた財政拡張への警戒感などから国内長期金利は連日上昇し、一時2.80%まで上昇しました。月末にかけては、米国とイランの停戦協議への期待感や株価の上昇を受けた資産配分調整（リバランス）目的の債券買いから国内長期金利は低下しました。この結果、国内長期金利は前月末比で約0.14%上昇し、2.67%近辺で月末を迎えました。

当月の市況動向（海外債券）

当月の米長期金利は前月から小幅に上昇しました。前半は、4月の米消費者物価指数（CPI）においてエネルギー価格を中心に前年同月比の伸びが大幅に加速したことや、米国とイランの停戦交渉が進展せず海上輸送の要衝であるホルムズ海峡の事実上の封鎖が長期化する中、インフレ再燃への警戒感が強まり、金利は上昇基調で推移しました。後半は、トランプ米大統領が「米国とイランとの交渉が最終段階にある」との見解を示したことで過度な懸念が和らぎ、金利は低下基調に転じました。当月末時点での米長期金利は4.44%となりました。

当月の欧州（独）長期金利は前月から低下しました。前半は、米国とイランの停戦交渉が進展せず海上輸送の要衝であるホルムズ海峡の事実上の封鎖が長期化する中、インフレ再燃への警戒感から複数の欧州中央銀行（ECB）高官が利上げの可能性を示唆したこともあり、金利は上昇基調で推移しました。後半は、トランプ米大統領が「米国とイランとの交渉が最終段階にある」との見解を示したことで過度な懸念が和らぎ、金利は低下基調に転じました。また、景況感等の経済指標が鈍化したことも金利の低下を後押ししました。当月末時点での欧州（独）長期金利は2.94%となりました。

当月の市況動向（為替）

当月の米ドル・円相場は前月から下落しました。前半は、政府・日銀によって大規模な為替介入が実施されたとの観測から、ドル・円は急落して始まりました。しかし、日米の金融政策スタンスの違いや、エネルギー価格の高騰といった構造的な円売り圧力が根強く、徐々に円が売り戻される展開となり、ドル・円は上昇基調で推移しました。後半は、トランプ米大統領が「米国とイランとの合意が最終段階にある」との見解を示し、投資家のリスク選好姿勢が強まったほか、高市首相が補正予算案の編成を表明したことで財政悪化への懸念も意識され、ドル・円は高値圏でもみ合う展開となりました。月を通じた根強い円売り圧力があったものの、前半の急落分を取り戻すまでには至らず、月末時点では159.39円（東京市場）と前月末比1.00円のドル安・円高となりました。

当月のユーロ・円相場は前月から下落しました。前半は、政府・日銀によって大規模な為替介入が実施されたとの観測から、ユーロ・円は急落して始まりました。しかし、日欧の金融政策スタンスの違いや、エネルギー価格の高騰といった構造的な円売り圧力が根強く、徐々に円が売り戻される展開となり、ユーロ・円は上昇基調で推移しました。後半は、トランプ米大統領が「米国とイランとの合意が最終段階にある」との見解を示し、投資家のリスク選好姿勢が強まったほか、高市首相が補正予算案の編成を表明したことで財政悪化への懸念も意識され、ユーロ・円は高値圏でもみ合う展開となりました。月を通じた根強い円売り圧力があったものの、前半の急落分を取り戻すまでには至らず、月末時点では185.66円（東京市場）と前月末比1.71円のユーロ安・円高となりました。

ファンドの状況と今後の運用方針

各投資対象ファンドへの投資割合は、基準ポートフォリオの範囲内でリターン特性等を基に決定し、それを維持するため適宜リバランスを行います。また、各投資対象ファンドへの投資割合は大きく見直される場合があります（※）。

当月につきましては、上記方針に基づき、本資料の1頁目から3頁目に掲載の「資産別組入比率と騰落率」の通りの投資割合としました。

なお、投資対象ファンドにつきましては、本資料の10頁目（投資対象ファンド一覧）をご参照下さい。

今後につきましても、引き続き、上記方針に基づき、各投資対象ファンドへの投資を通じて、信託財産の中長期的な成長を目指します。

（※）国内株式・外国株式に係る投資対象ファンドでは、既に組入れられていた投資対象ファンドが除外されること、もしくは投資対象ファンドが新たに加わる場合があります。

運用体制

原則作成基準日時点で入手しうる情報に基づきます。

2026年3月31日時点

運用責任者	深山 大介・藤井智朗
経験年数	18・24年
運用担当部	戦略運用部

投資対象ファンドの状況

国内株式（ニッセイ国内株式配当利回り重視型マザーファンド）

組入上位銘柄（銘柄数：67）

	銘柄	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	5.5%
2	三井住友フィナンシャルグループ	4.7%
3	東京エレクトロン	4.7%
4	三菱商事	4.3%
5	村田製作所	4.2%

※対組入株式評価額比

組入上位業種

	業種	比率
1	電気機器	19.2%
2	銀行業	12.2%
3	機械	8.5%
4	卸売業	6.5%
5	化学	5.7%

※対組入株式評価額比

国内株式（ニッセイJPX日経400アクティブマザーファンド）

組入上位銘柄（銘柄数：47）

	銘柄	比率
1	三井住友フィナンシャルグループ	5.6%
2	村田製作所	5.5%
3	三菱電機	4.0%
4	東京エレクトロン	3.9%
5	りそなホールディングス	3.9%

※対組入株式評価額比

組入上位業種

	業種	比率
1	電気機器	29.2%
2	銀行業	15.6%
3	卸売業	10.3%
4	機械	6.5%
5	非鉄金属	6.1%

※対組入株式評価額比

国内株式（ニッセイ国内株式リサーチ・バリューマザーファンド）

組入上位銘柄（銘柄数：81）

	銘柄	比率
1	トヨタ自動車	4.3%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.1%
3	三井住友フィナンシャルグループ	3.5%
4	パナソニックホールディングス	2.9%
5	ソニーグループ	2.7%

※対組入株式評価額比

組入上位業種

	業種	比率
1	電気機器	19.5%
2	銀行業	11.3%
3	化学	8.8%
4	卸売業	7.1%
5	輸送用機器	7.0%

※対組入株式評価額比

海外株式（ニッセイ／ブラウン・グローバル・リーダーズ株式マザーファンド）

組入上位銘柄（銘柄数：30）

	銘柄	比率
1	アルファベット（C）	8.0%
2	マイクロソフト	7.9%
3	ビザ	5.9%
4	台湾セミコンダクター（T SMC）	5.8%
5	マスターカード	5.7%

※対組入株式等評価額比

組入上位国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	50.5%
2	イギリス	12.8%
3	ドイツ	8.4%
4	台湾	5.8%
5	フランス	4.4%

※対組入株式等評価額比
※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

海外株式（ニッセイ／サンダース・グローバルバリュー株式Ⅱマザーファンド）

組入上位銘柄（銘柄数：61）

	銘柄	比率
1	台湾セミコンダクター（T SMC）	8.4%
2	アルファベット（C）	7.6%
3	アマゾン・ドット・コム	5.7%
4	メタ・プラットフォームズ	4.9%
5	サムスン電子	4.9%

※対組入株式等評価額比

組入上位国・地域

	国・地域	比率
1	アメリカ	61.1%
2	イギリス	8.6%
3	台湾	8.4%
4	韓国	4.9%
5	スイス	3.9%

※対組入株式等評価額比
※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

国内債券（ニッセイ国内公社債クレジット特化型マザーファンド）

ポートフォリオ情報		
平均格付	※1	AA-
平均修正デュレーション	※2	7.64年
平均最終利回り	※3	2.93%

※1 格付は、R&I、JCR、ムーディーズ、S&Pのうち、上位の格付を採用しております。また平均格付とは、投資対象ファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。以下同じです。

※2「デュレーション」＝債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。以下同じです。

※3「最終利回り」＝満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。以下同じです。

* 繰上償還等を考慮して計算しています。

債券種別構成比率	
種別	比率
国債	31.5%
地方債	—
政府保証債	—
金融債	—
事業債	63.8%
円建外債	3.1%
MB S・A B S	1.4%
先物	—

※対純資産総額比

国内債券（ニッセイ国内債券アクティブ（金利戦略重視型）マザーファンド）

ポートフォリオ情報		
平均格付	※1	AA+
平均修正デュレーション	※2	7.16年
平均最終利回り	※3	2.36%

* 繰上償還等を考慮して計算しています。

債券種別構成比率	
種別	比率
国債	69.6%
地方債	—
政府保証債	—
金融債	—
事業債	26.2%
円建外債	1.8%
MB S・A B S	0.8%
先物	— 6.0%

※対純資産総額比

海外債券（ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド）

ポートフォリオ情報		
平均格付	※1	AA-
平均デュレーション	※2	5.72年
平均最終利回り	※3	3.79%

※1 原則として格付は、ムーディーズ、S&P、フィッチレーティングスのうち上位の格付を採用しております。なお、いずれの格付会社からも格付が付与されていない場合は、フランクリン・アドバイザーズ・インクが同等の信用度を有すると判断した格付を使用します。

また平均格付とは、投資対象ファンドが組み入れている債券にかかる格付を加重平均したものであり、当ファンドにかかる格付ではありません。

※2「デュレーション」＝債券投資におけるリスク度合いを表す指標の一つで、金利変動に対する債券価格の反応の大きさ（リスクの大きさ）を表し、デュレーションが長いほど債券価格の反応は大きくなります。

※3「最終利回り」＝満期までの保有を前提とすると、債券の購入日から償還日までに入ってくる受取利息や償還差損益(額面と購入価額の差)等の合計額が投資元本に対して1年当たりどれくらいになるかを表す指標です。

* ファンドの運用委託先であるフランクリン・アドバイザーズ・インクのデータに基づき、現地月末営業日を基準に作成しています。

組入上位国・地域		
	国・地域	比率
1	アメリカ	42.7%
2	中国	8.0%
3	フランス	7.5%
4	イタリア	6.8%
5	イギリス	6.7%

※対純資産総額比

※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。

投資対象ファンド一覧

資産	投資対象ファンド	ファンドの特色
国内株式	ニッセイ国内株式配当利回り重視型マザーファンド	収益源泉の中心を配当利回りに求め、中長期的に安定したリターン獲得を目標に運用を行います。
	ニッセイＪＰＸ日経４００アクティブ マザーファンド	ＲＯＥ（自己資本利益率）の水準および変化、営業利益の水準および変化に着目し、経営効率に優れ利益成長力を有する銘柄に投資を行います。
	ニッセイ国内株式リサーチ・バリュウ マザーファンド	バリュエーション指標（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）に着目し、割安と判断される銘柄の中から、企業取材を中心としたリサーチをもとに投資銘柄を決定します。
国内債券	ニッセイ国内公社債クレジット特化型マザーファンド	債券種類別構成比の調整や社債の個別銘柄選択等、信用リスクの適切な管理を主な収益源泉として運用を行います。
	ニッセイ国内債券アクティブ（金利戦略重視型）マザーファンド	投資環境分析、期間別金利水準の動向、個別債券銘柄の分析等に基づく、債券の利回り変化に対する価格変動性のコントロール及び信用リスクの適切な管理等を収益源泉として運用を行います。
海外株式	ニッセイ／ブラウン・グローバル・リーダーズ株式 マザーファンド	企業の成長の持続性を重視した絶対リターン志向の銘柄選択を行います。また、ルールベースでの保有銘柄の機動的なウェイト調整でリターンの積み上げを目指します。運用にあたっては、ブラウン・アドバイザー・リミテッドに運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除く）を委託します。
	ニッセイ／サンダース・グローバルバリュウ株式Ⅱ マザーファンド	徹底的なファンダメンタルズ分析に基づき、一時的な悪材料によってフェアバリュウよりも過小評価された割安な銘柄への逆張り投資を行います。フェアバリュウ算定においては、企業のフリーキャッシュフローや収益などフローバリュウ指標を重視します。運用にあたっては、サンダース・キャピタル・エルエルシーに運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除く）を委託します。
海外債券	ニッセイ／パトナム・海外債券マザーファンド	トップ・ダウンのファンダメンタルズ分析をもとに、ポートフォリオ全体のデュレーション戦略およびセクター／カンントリーアロケーションを決定する一方、銘柄選択はボトム・アップの定量・定性分析に基づき行います。また、モデル分析等を通じて最適な為替エクスポージャーに調整します。運用にあたっては、フランクリン・アドバイザーズ・インクに運用指図に関する権限（国内の短期金融資産の運用の指図に関する権限を除く）を委託します。

ファンドの特色

- ①投資資金の目的や投資可能期間などによって3つのファンドからご選択いただけます。
 - ②マザーファンドへの投資を通じて、国内株式・国内債券・海外株式・海外債券に分散投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざします。
 - ③投資対象とするマザーファンドへの投資割合は、基準資産配分の範囲内でリターン特性や市場環境等をもとに決定します。
 - ④3つのファンド間でスイッチングが可能です。
- ※スイッチングとは、保有しているファンドの換金と同時に乗換えるファンドを購入する取引です。なお、スイッチングの際には、購入時と同様に販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時と同様に税金がかかる場合があります。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク		株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
債券投資リスク	金利変動リスク	金利は、景気や経済の状況等の影響を受け変動し、それにともない債券価格も変動します。一般に金利が上昇した場合には、債券の価格が下落します。
	信用リスク	債券の発行体が財政難・経営不振、資金繰り悪化等に陥り、債券の利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる場合（債務不履行）、またはそれが予想される場合、債券の価格が下落することがあります。
短期金融資産の運用に関するリスク		コマーシャル・ペーパー、コール・ローン等の短期金融資産で運用する場合、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により損失を被ることがあります。
為替変動リスク		原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク		外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
投資割合等の投資行動に関するリスク		国内株式や海外株式（以下「各資産」といいます）のそれぞれに投資する複数のマザーファンドにおいて、その投資割合は各資産における基準資産配分内でリターン特性等をもとに定期的、あるいは市場環境等に応じて変更します。 また、各マザーファンドにおいては、定性・定量評価等により適宜見直しを実施します。これにより、ファンドの投資対象から除外される、または新たなマザーファンドがファンドの投資対象となることがあります。 これらの投資行動がファンドの収益の源泉となる場合もありますが、損失を被る要因となる場合もあります。
流動性リスク		市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要がある場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドン証券取引所、ロンドンの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金・スイッチングの申込みの受け付けを行いません。 海外休日カレンダー： https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html#hdg14
決算・分配	決算日	12月20日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2000年1月14日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となりますが、いずれのファンドもNISAの対象ではありません。
	スイッチング	「債券重視型」「標準型」「株式重視型」の各ファンド間でスイッチングが可能です。スイッチングの際には、購入時と同様に販売会社が定める購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時と同様に税金がかかる場合があります。 ※販売会社によっては、いずれか1本のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用				
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 2.2%（税抜2.0%）を上限 として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。		
換金時	信託財産留保額	ありません。		
投資者が信託財産で間接的に負担する費用				
毎 日	運用管理費用 (信 託 報 酬)	ファンドの純資産総額に以下の信託報酬率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。		
		信託報酬率 (年率)	債券重視型	標準型
			0.715%（税抜0.65%）	0.979%（税抜0.89%）
			1.276%（税抜1.16%）	
	監 査 費 用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。		
随 時	その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。 また、ファンドが「ニッセイ国内株式配当利回り重視型マザーファンド」を購入や換金する際には、信託財産留保額※をファンドからご負担いただきます。 ※ニッセイ国内株式配当利回り重視型マザーファンドの基準価額に0.04%をかけた額。		

-  当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
-  詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。
詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
SMB C日興証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	株式会社熊本銀行		○	九州財務局長(登金)第6号	○		
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○	○	○	株式会社三十三銀行(※1)		○	東海財務局長(登金)第16号	○		
岡三証券株式会社(※1)	○		関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	株式会社千葉銀行		○	関東財務局長(登金)第39号	○		○
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	株式会社富山第一銀行(※1)		○	北陸財務局長(登金)第7号	○		
三菱UFJ eスマート証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	株式会社名古屋銀行(※1)		○	東海財務局長(登金)第19号	○		
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	株式会社西日本シティ銀行(※1)		○	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○
ワイエム証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第8号	○			株式会社百十四銀行(※1)		○	四国財務局長(登金)第5号	○		○
株式会社あいち銀行		○	東海財務局長(登金)第12号	○		○	株式会社三菱UFJ銀行(※1)		○	関東財務局長(登金)第5号	○		○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)		○	関東財務局長(登金)第10号	○		○	株式会社宮崎太陽銀行		○	九州財務局長(登金)第10号	○		
							株式会社山口銀行(※1)		○	中国財務局長(登金)第6号	○		○
							九州労働金庫		○	福岡財務支局長(登金)第39号			
株式会社北九州銀行(※1)		○	福岡財務支局長(登金)第117号	○		○	東北労働金庫		○	東北財務局長(登金)第68号			

(※1)現在、新規申込の取り扱いを行っておりません。